

共創のまちづくりをめざして

平成16(2004)年に「川西町まちづくり基本条例」を制定し、町民と行政が連携する「協働のまちづくり」を進めています。

かわにし未来ビジョン(第5次川西町総合計画)

基本目標

夢と愛を未来につなぐまち ～田園回帰の時代の流れの中で～

テーマ

「協働」そして「共創」へ

第2期川西町まち・ひと・しごと創生総合戦略

リーディングプロジェクト

メディカルタウン整備推進プロジェクト

5つのプロジェクト

地域経済活性化プロジェクト 移住・定住・交流促進プロジェクト 男女共同参画推進プロジェクト
町民総活躍プロジェクト 安心して暮らせるまちづくりプロジェクト

充実の英語教育

小学校6校(大塚小、犬川小、小松小、中郡小、吉島小、玉庭小)、中学校1校(川西中)により、学力の向上を図るとともに生きる力と夢を持つ教育を推進しています。令和2(2020)年度から小学校で必修化された英語教育にも力を入れており、授業を行う先生方のレベルアップも図っています。また、すべての小中学校がコミュニティ・スクールとなっており、学校・家庭・地域が一体となったよりよい教育の実現を目指しています。



安心の子育て支援

町立の幼稚園・保育施設は北斗幼稚園、美郷幼稚園、小松保育所、玉庭へき地保育所の4か所となっています。また、町内には民間が運営する4つの幼稚園・保育施設があります。その他、子育て支援センターやファミリー・サポート・センターの運営により、地域で安心して子育てできる環境を作っています。子育てを支援する主な制度として、高校生相当までの医療費無償化を行っているほか、病児保育の運営を支援しています。



支え合いの福祉

高齢者の困りごとや地域のニーズを把握するため各地区に生活支援コーディネーターを配置、地域の支え合いを推進し、住み慣れた地域でいつでも安心して生活できる環境を作っています。また、「障がいがある人もない人も共生できるまちづくり」を進めており、障がい者(児)の自立と社会参加の実現を図っています。



公共交通の確保

かつて町営バスが町内を運行していましたが、タクシー事業者と協力して平成18(2006)年からデマンド型乗合交通の運行を開始。町民の足として親しまれています。鉄道はJR米坂線と山形鉄道フラワー長井線が町内を運行しています。町の玄関口であるJR羽前小松駅は昭和57(1982)年から全国初の町民駅として町が運営を開始し、現在はNPO法人により駅業務が行われています。



町の位置

川西町は、日本の東北地方、山形県南部の置賜地方のほぼ中心に位置し、リスボン、ソウル、アテネ、ワシントンと同じ北緯38度に位置している町です。町内に北緯38度と東経140度の交差点があります。



シンボルマーク



町章

町の花

町の木

町章は「川西」を図案化したもので、円満融和に結びつく、全町民の心を表し、円化した「西」を中心に「川」を組み合わせたものです。町の花はダリア、木は松となっています。

町民憲章

- 一、自然と生活の調和をはかり美しい町をつくりましょう
- 一、働きと工夫によって豊かな町をつくりましょう
- 一、あたたかい心で助けあい楽しい町をつくりましょう
- 一、きまりを守り、健康で明るい町をつくりましょう
- 一、教養を高め、ゆとりある文化の町をつくりましょう



山形県川西町 町勢要覧2022

編集・発行◎山形県川西町
〒999-0193
山形県東置賜郡川西町大字上小松977番地1
TEL0238-42-2111(代表)
FAX0238-42-2724(代表)
<https://www.town.kawanishi.yamagata.jp/>
発行日◎2022年3月
企画・印刷/藤庄印刷株式会社



川西町HP



町のシンボル、ダリア

日本最大級の観光ダリア園を有する川西町。ダリア栽培も盛んで、齋藤弘史さん(中郡)のハウスでは色とりどりで大小個性豊かなダリアが丹精込めて育てられ、全国に出荷されている。

KAWANISHI STYLE
01 笑顔が
 行き交う
 心豊かな生活。

周囲を山々に囲まれた米沢盆地の中心に位置し、豊かな自然が息づく川西町。盆地独特の気候と風土に根差した人々の生活は、自然の恩恵とともにあり、この地に魅力を感じ、移住する人々も少なくない。平成23(2011)年度から受入開始した「地域おこし協力隊」は令和3(2021)年度まで延べ29名の隊員が、農業や地域づくり、文化振興など多方面で活躍。任期終了後、そのまま定住する隊員も多数だ。

人々がともに助け合い、協力し合いながら生活するのも町の特徴。「川西町子ども食堂なかよしキッチン」は、安心して集い交流を持てる居場所をつくらうと地域の母親たちが主体となり始まった取り組み。吉島地区の「きらりよしまネットワーク」は地区内全戸が加入するNPO法人で、各分野における先駆的な取り組みが地域づくりのモデルとして全国から注目されている。



KAWANISHI STYLE
02 理想郷と
 讃えられた
 日本の原風景。

明治11(1878)年、小松町(現在の川西町)を訪れた英国の女性旅行家イザベラ・バードは、その著書『日本奥地紀行』で、諏訪峠から望む風景の美しさに感動し「東洋のアルカディア」と称賛した。人々の暮らしがつくる田園や里山の風景は、今も日本の理想郷と言うにふさわしい豊かな恵みに満ちている。春の訪れを告げる山桜、清らかな水を湛える初夏の水田、実り豊かな秋の稲穂、静寂に包まれる銀世界…。四季折々に表情を変える町の風景は、後世に残したい大切な宝だ。

「川西ダリア園」は、昭和35(1960)年に日本初の観光ダリア園として開園。町内でダリア栽培が楽しまれていたこともあり誕生し、令和2(2020)年で60周年を迎えた。650種10万本が咲き誇り、町内外から訪れる人々の目を楽しませている。



1 農業研修や遅筆堂文庫研究員など多岐にわたる地域おこし協力隊活動 2 「川西町子ども食堂なかよしキッチン」の食事会 3 「NPO法人きらりよしまネットワーク」では地域づくりのアイデアを出し合うワークショップを定期的開催 4 中山間地の東沢地区と東京都町田市の子どもの交流事業「東沢やんちゃ留学」 5 地域医療の核、公立置賜総合病院は、町民にとって欠かせない存在 6 山形県立置賜農業高等学校では、「農」や「食」、「環境」について実践を重視した学びを展開。地域との連携・協働による教育活動を行っている

詳しい情報はこちらから
 QRコードを読み取ると、ホームページやフェイスブックをご覧いただけます





KAWANISHI STYLE 次世代へ残したい町の宝もの。

山形鉄道フラワー長井線の西大塚駅は、大正3(1914)年に開業し、今や全国でも数少ない現役の木造駅舎だ。昭和の風情あるたたずまいで地域住民に愛されている。寛政2(1790)年に創業した老舗菓子舗「錦屋」は、趣のある茅葺屋根が特徴。この地域の町屋の面影を残す貴重な国登録有形文化財だ。

はるか昔、4~6世紀の古墳時代においても、この地で人々が生活を営んでいることを伝えるのが「下小松古墳群」。前方後円墳をはじめおよそ200基の古墳が残り、東北地方最大級の古墳群を形成している。

町が生み出した偉人たちも、町が誇る宝ものだ。作家・劇作家の井上ひさしをはじめ、英語学者・高梨健吉や教育者・本間喜一、洋画家・黒澤梧桐、社会活動家・寒河江善秋など、先人たちの功績を学ぶ取り組みも続いている。



KAWANISHI STYLE 時を超え受け継ぐ郷土への誇り。

燃えさかる火の輪の中を、一瞬でくり抜ける獅子。町の夏を彩る「小松豊年獅子踊」は、平安時代から続く伝統ある踊りだ。3匹の獅子の躍動の中に農作業のしぐさが織り込まれ、牝獅子が火の輪をくぐる「牝獅子の狂い」で場面は最高潮に盛り上がる。江戸時代には豊作の年のみ踊ることが許され、豊年獅子踊と呼ばれるようになった。豊作を願う獅子舞は各地区でも奉納され、町の大切な民俗芸能として受け継がれている。

町出身で作家・劇作家の井上ひさしから寄贈された書籍22万点を収蔵する「運筆堂文庫」。この施設を核に劇場と町立図書館を併設する「川西町フレンドリープラザ」は、町の文化発信の拠点。子どもから大人まで町民みんなが「知」の探究と「芸術」に親しんでいる。



1 町立図書館にある本の樹。読者から寄せられた井上ひさしの著書が並ぶ 2 平成22(2010)年に逝去された井上ひさしを偲ぶ文学忌「吉里吉里忌」 3 各神社でもそれぞれ獅子の勇壮な舞が奉納されている 4 子どもたちが提灯行列をつくり、「ヨッセーヨッセーヨッセー」と唱えながら練り歩く「神送り」 5 山形県指定無形民俗文化財「小松豊年獅子踊」。踊りの中では、花笠をかぶった6人の早乙女の太鼓に笛と歌が流麗な調べを重ねる。火の輪くぐりは、子がさらわれ、狂った牝獅子の様子を表現。火の輪をくぐる獅子は全国でも珍しい

1 山形鉄道フラワー長井線の西大塚駅。駅本屋は、石造谷積のプラットフォームとともに国登録有形文化財となっている 2 現役の菓子店舗としても活用されている「錦屋」 3 町出身の先人の功績を紹介する「アルカディア人物館」 4 江戸元禄期創業の酒造会社「樽平酒造」の主屋 5 東北地方最大規模の古墳群「下小松古墳群」 6 自然の草木に宿る魂を供養するために建立された草木塔は、国内でも置賜地方に集中して見られ、町では22基が確認されている

運筆堂文庫・井上ひさしについて詳しくは川西町フレンドリープラザHP▶

小松豊年獅子踊について詳しくは川西町HP▶

町の指定・登録文化財について詳しくは川西町HP▶

草木塔について詳しくは川西町HP▶

町の偉人たちについて詳しくは川西町交流館あいばるHP▶

KAWANISHI STYLE スポーツで

05 育む 町民の健康。

平成4(1992)年に山形県で開催された「べにばな国体」において、ホッケー競技全種目の会場となったことをきっかけに「ホッケーのまち」を提唱してきた川西町。以来、全国規模の大会を多数開催、平成24(2012)年に整備した人工芝ホッケー場から世界に羽ばたく選手も輩出している。

6月と9月に行われるマウンテンバイク大会では、町内外から多くの愛好家が訪れ交流を深める。雪深い地域性を生かしたウィンタースポーツも盛んで、町営小松スキー場ではスキーやスノーボード、雪板に興じる町民が多い。

各地区で開催する「地区運動会」や「川西ダリヤパークゴルフ場」での競技など、町民みんなが気軽に健康づくりやスポーツ・レクリエーションを楽しみ、健康で元気な体を育てている。



1



1



2



3



4



5



2



3



4



6



7

KAWANISHI STYLE 町の資源を 生かした 味と技。

06 味と技。

広大な田園が広がり、全国屈指の「米どころ」としても知られる川西町。研究熱心な作り手たちが「つや姫」「雪若丸」など、山形県が誇るブランド米を生産している。全国に名高い「米沢牛」の主産地でもあり、繁殖雌牛の飼養頭数は県内一となっている。

近年では、町に伝わる在来作物「紅大豆」に注目が集まり、生産を拡大。おいしさや調理法を伝える豆のソムリエ「マメリエ」が誕生するなど、「豆のあるまちかわにし」としてのPR活動も広がっている。

工業製品でも優れたものづくりが行われており、三菱鉛筆株式会社山形工場とその関連会社では、世界のトップレベルにあるボールペンと鉛筆が製造されている。

豊かな自然環境と、真面目な作り手たちが育ててきた味と技。人々はその素晴らしさと可能性を未来へつなごうとしている。



5



6



7

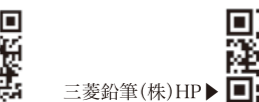


8



9

1 活躍する置賜農業高校ホッケー部・川西中学校ホッケー部の選手たち 2 7地区で行われる地区運動会で地域住民の親睦が深められる 3 板に長靴などで乗り、サーフィンのように雪上を滑走する「雪板」 4 川西ダリヤ園周辺の内山沢遊歩道で開催される「ダリヤカップMTB大会」 5 自熱する川西中学校体育祭の騎馬戦 6 スポーツかわにし「バドミントン教室」 7 平成30(2018)年にオープンした山形県内で最大規模の「川西ダリヤパークゴルフ場」



9 紅大豆をつかった 様々な加工品も人気